

まで多くの専門医、指導医を輩出するとともに、研究においても多岐にわたる優れた成果を発表してきました。このように、研究・教育・診療のあらゆる場面に於いて、全ての教職員がそれぞれ異なるスタンスに立ちながらも、常に「楽しく、仲良く、アクティブに」を合言葉に、同じ目線で新しい腎臓内科学とよりよい医療を目指す、そのような教室を実現していきたいと考えています。

熊本大学医学部附属病院地域医療システム学寄附講座特任教授就任のご挨拶



熊本大学医学部附属病院
地域医療システム学寄附
講座 特任教授
松井 邦彦

肥後医育振興会には、日頃より大変お世話になり有難うございます。この春平成二十六年四月一日付で、熊本大学医学部附属病院地域医療システム学寄附講座の特任教授として着任しました、松井邦彦と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。この講座は、熊本県内における地域の医師不足、偏在等の問題解決をめざし、平成二十一年に熊本県よりの寄附講座として設置されました。前任の黒田豊先生が、その基礎作りにご尽力され、続く私の役割は、その業績をさらに発展させることと考えています。

また昨年熊本県は、地域医療支援機構を設立し、本年度よりその運営が、熊本大学医学部附属病院に委託されることとなりました。更に熊本大病院内には地域医

療支援センターが新たに設置され、機構と一体化してさまざまな業務を行うことになりました。これらの取り組みは、県と大学が密に連携をとり合って仕事を進めるといったことや、熊本大病院がこれまで以上に県内の地域医療に貢献しようという考えの表れと、私は認識しています。

一方、教育に関連したことは、卒前卒後のそれぞれの場面で喫緊の課題があります。まず卒前教育の中では、臨床実習の充実化に加えて、これまで選択であった地域医療研修の必修化などの流れがあります。熊本大学でも現在、大幅なカリキュラム改革が進んでいると伺っています。私達は全ての学生に対し、地域医療に貢献した実習を含むさまざまな教育活動に貢献することができればと考えています。さらに熊本大学では、熊本県修学資金貸与の学生が、来春いよいよ卒業を迎えます。また地域枠入学学生の一期生もすでに五年生になっています。これらの学生が、将来、県内の各地域、施設で活躍することができるよう、円滑にキャリア形成を積んでいくためのお手伝いも、私たちの重要な役割です。卒後教育に関しては、これらの学生が二年間の臨床研修を修了し専門医への研修へと進む平成二十九年より、新しい専門医制度が開始されます。その中で新たに、一九番目の基本となる専門領域として、総合診療が認められることになったのは、先生方もご存知の通りです。これからの地域医療の中で、特に総合診療専門医への期待は大きいと思われませんが、この総合診療専門医の育成も、私たちの重要な役割です。

このように、たくさんの課題や行うべき仕事如山積するなかで、微力ではありますが、一つ一つ取り組んでいく所存です。しかし当然ながら、これらは先生方

のご協力なしにできるものではありません。先生方のご指導を仰ぎながら、進めていきたいと存じます。今後とも、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

熊本大学医学部附属病院病理部教授就任のご挨拶



熊本大学医学部附属病院
病理部教授
三上 芳喜

平成二十六年四月一日付で熊本大学医学部附属病院病理部教授、部長に就任いたしました。私は平成二年に弘前大学医学部を卒業し、東北大学医学部附属病院病理部医員（研修医）、川崎医科大学附属病院病理部シニアレジデント（後期研修医）を経て病理専門医を取得し、その後、平成十四年十月から十七年三月まで東北大学大学院医学研究科病理形態学分野、平成十七年四月から本年三月まで京都大学医学部附属病院病理診断科に勤務いたしました。その間一貫して病理診断に携わってきたほか、病理専門医の育成に力を注いでまいりました。専門は病理診断学全般、細胞診断学で、全身のあらゆる臓器・疾患の病理診断を行っておりますが、研究領域としては主に泌尿器病理学、婦人科病理学、乳腺病理学を専門としております。

就任にあたり、私が与えられた使命は、各診療科への質の高い病理診断の提供と病理専門医の育成、研究ならびに研究支援であると考えております。病理診断の質を高いものとするためには、病理診断

が正確であるのみならず、診断報告書に診療に必要な情報が十分に盛り込まれており、さらにその情報が迅速に主治医に伝えられる必要があります。これらを担保する精度管理体制を構築するために、検体の受領からその処理、標本作製から標本の鏡検、診断報告書の作成および送付、に至るまでの一連の業務が適切に行われるよう監視し、必要とされた場合には作業手順の改善を行うという統合的品質管理の思想を実践してまいります。

医学研究においては形態観察およびそれに関連する各種染色技術、切片上での遺伝子解析技術が研究手法として重要な位置を占めることが少なくありません。従って、病理部では独自の研究を展開するのみならず、臨床試験を含む各診療科の研究の支援を行うための体制を整えたいと考えております。

病理専門医は病院全体の医療の質を担保するインフラであるといえますが、現在日本では全医師に占める病理医の割合は約〇・六％であり、人口補正をしますと米国の約六分の一に過ぎません。こうしたことから、高い専門性を有する病理専門医の確保に努める一方で、次の世代を担う若手病理専門医を育成すべく、魅力的な研修プログラムを構築し、充実させていきたいと考えています。同時に、病理以外の診療科を志望する医学生、研修医のために、病理学的思考ができる臨床家を養成できるような卒前・卒後教育を目指します。高いモチベーションを持って診療を支援する病理専門医、病理学的思考ができる臨床家を育成するため、肥後医育振興会ははじめ関係の方々のご支援を賜ることができれば幸いです。